

登別市史編さんだより

調査報告 香川県で資料調査を行いました

登別市には、明治期に四国や淡路島から400戸以上の人々が移住しています。

移住の詳細を調べるために、香川県を訪問し、県立文書館、県立図書館、丸亀市立中央図書館、金刀比羅宮で調査を行いました。今号では2か所の調査成果についてご報告します。



金刀比羅宮での繪馬撮影の様子

●金刀比羅宮 (琴平町)

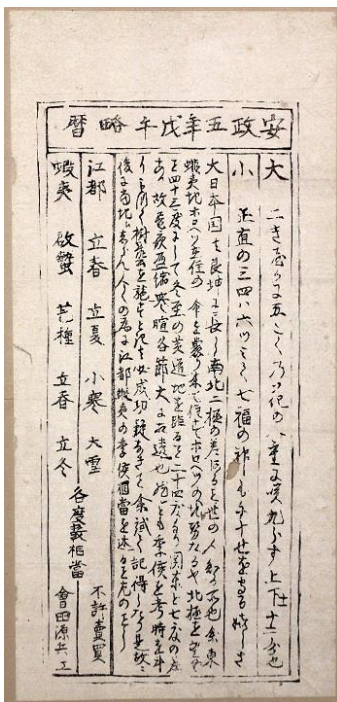
金刀比羅宮には、明治15(1882)年、同16年に幌別郡へ移住した人々が同16年2月に奉納した、幅2.6mにも及ぶ大きな繪馬「北海道札幌県胆振国幌別郡開墾略図」(国指定重要文化財)があります。

繪馬には、移住者の名前のほか、鋤を振り下ろし開墾に励む人々、馬車などが描かれ、開墾の成功を祈った当時の人々の思いや願いを知ることができます。

●香川県立図書館 (高松市)

地元紙『香川新報』の明治24(1891)年から同26年までの記事を読みました。ある時期まで、紙面の一面に大きく掲載されていた北海道移住に関する記事が、無許可での移住者が増加し、渡航規制が厳しくなるに従い、紙面の内側への掲載となり、内容も無計画な移住の中止を説得するものへと移り変わり、当時の北海道への移住の混乱した様子がわかりました。

資料紹介 安政五年戊午略暦



安政五年戊午略暦 (松浦武四郎記念館所蔵)

松浦武四郎は、安政5(1858)年の第6回蝦夷地調査の途中、幕府の命令によって武蔵国大宮(現さいたま市)からホロボツ(現登別市)に移住していた会田源兵衛に会い、「安政五年戊午略暦」を入手します。

農作業や日常生活に必要な事柄を記した「略暦」には、会田源兵衛が、移住してからの経験をもとに「ホロボツと江戸とでは、緯度が7度違うので気候も大きく異なるが、その気候を考えて農作業を行えば必ず成功するだろう。」と、ホロボツと江戸との季節の対比を記しています。これによると、当時のホロボツは、江戸よりも暖かい期間が1年で2か月ほど短いと考えられていたようです。

この北海道の気候については、上述の調査報告でも紹介した『香川新報』にも、「四国で可能な二毛作や二期作は北海道では行えないので、十分な広さの農地を取得するように」と北海道移住の心得の一つとして述べられています。

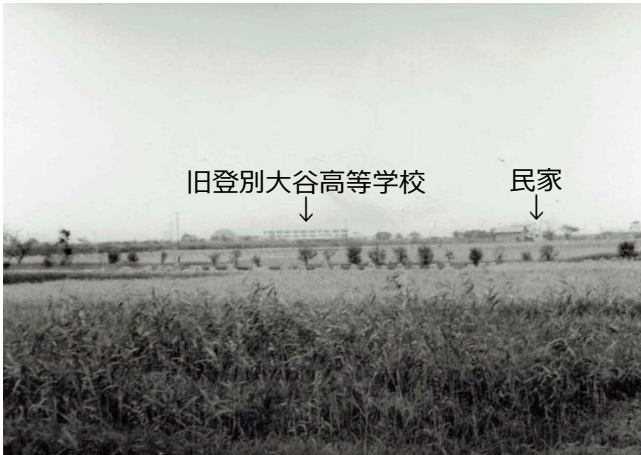
この「略暦」は、松浦武四郎が北海道内各地で入手した文書などととともに「蝦夷屏風」に貼られて、松浦武四郎記念館(三重県松阪市)に所蔵されています。

街並み今昔 桜木町

今回は、市民の方からご提供いただいた写真を元に約50年前の桜木町の様子を紹介します。

第8号（8月1日発行）に掲載した航空写真とも見比べてみてください。

●現在の桜木団地付近から旧登別大谷高等学校方向を望む



約50年前の桜木町2丁目の様子



桜木町4丁目での田植えの様子

約50年前の桜木町には水田や畑が広がり、桜木団地から旧登別大谷高等学校までを見通すことができました。

桜木町に広がる水田では、胆振幌別川の支流である徳消川、新徳消川、ノボリトラシナイ川の水を利用して、稲作が行われていました。

●桜木町5丁目からカムイヌプリ方向を望む



約50年前の桜木町5丁目、6丁目の様子



現在の様子（平成30年11月6日撮影）

新徳消川に架かる桜木橋付近から撮影した桜木町5丁目、6丁目の様子です。

写真の中では、建物を一棟も確認することができませんが、撮影から半世紀を経た平成30年9月末日現在では339世帯（桜木町5丁目、6丁目の世帯数）が住む住宅地へと変貌を遂げます。

◎資料に関する情報提供のお願い

市史編さんグループでは、昔の登別を知る手掛かりとなる資料についての情報を集めています。

お祭りやまちの様子を写した写真や映像、当時の日記など、お心あたりのある方はご連絡ください。

（連絡先）登別市総務部市史編さんグループ 千葉・更科・玉田・小坂

電話：0143-50-6039 FAX：0143-85-1108